



## 「難民の民間シェルター事例報告会」を開催しました

2023年9月27日

日時：2023年9月24日 15:30～17:30

場所：名古屋働く人の家

参加者：16名

三重県の個人宅において、ホームステイ形式で難民を受け入れてくださったフランス人のキャミさんと、ステイしていた難民当事者（ジョンさん・仮名）を招いて、民間シェルターの成功事例として報告会を開催しました。

前半は40分ほど名古屋難民支援室のスタッフから団体やケースワークについて説明を行いました。その中で特に、どのような場面で難民が住居支援を必要とするのか、支援室が行っている難民の住居・シェルター支援、難民事業本部から支給される保護費について説明して、支援室の考えるシェルター支援のポイント・課題を参加者にお伝えしました。説明終了後には、保護費の制度や支援室の行ってきた住居支援に関するものを中心に、参加者から多くの質問がありました。日本の難民認定制度自体の課題に関する質問や、保護費がもらえない期間の生活状況について、参加者の関心が高かったです。

後半は、支援室のスタッフからジョンさんの来日後の経過について説明した後で、スタッフがキャミさん・ジョンさんへ質問する中で、お2人にお話しいただきました。ジョンさんからは、家についてもどんな人か分かるまで最初は不安だったがキャミさんからの話しかけが多くあったことや、スポーツやイベントに積極的に連れ出してくれたことで、次第に打ち解けるようになり、安心して過ごせるようになったとのお話がありました。キャミさんも、最初は出身国についての不用意な発言などで傷つけてしまわないか不安だったが、自分の家のように思って過ごしてほしいため、「自分の家だと思って過ごしてね」と声をかけたり、ご飯も多めに作って自由に食べられるようにするなど、居心地が良くなるようにしていた、と仰っていました。ジョンさんは口数が少ない方ではあったが、保護費支給が決定していつシェルターを出るかという話になった時に、当時出産を間近に控えていたキャミさんに対して出産まで家にいたいと言ってくれたことがとても嬉しかったし、名古屋に住むようになった今も時々遊びに来てくれて、本当の家族のように感じているとお話していました。キャミさんは、中間団体である名古屋難民支援室がこまめに連絡を取ってくれたことで安心して受け入れることができたといいます。

参加者からも多くの質問が寄せられました。キャミさんの近隣住民や友達へどのようにジョンさんを紹介していたか、食事やコミュニケーションをどのようにしていたか、今後行ってみたいところはあるか、といったことについての質問があり、キャミさんとジョンさんに丁寧に答えていただきました。支援室に対しては、ボランティアとしてどのような活動ができるのか、当事者の話が聞けるのはとてもいいので今後もこういった機会があると良い、とのコメントがありました。

